

議席10番

田山 文雄 議員



持続可能な開発のための目標（SDGs）について

Q 国連サミットにおいて、貧困や格差をなくし、気候変動、健康増進、教育の拡充、経済成長などの課題解決に向け2030年の達成を目指して取り組む国際的な目標がSDGsであるが、当町としての取組について。

A 町では、SDGsの関連施策の実施、情報発信や普及活動に取り組んでいる。今後もさらに積極的に取組んでいきたい。

（参事兼企画経営課長）

防災対策について

Q 全国的に甚大な被害をもたらした台風19号、当町においても全国初となる広域避難やバスを使用

しての避難など注目を浴びた。今回の事で、見えた課題や問題点、当町としての今後の取組について。

A 自治体を超えての広域避難は全国でも初めての試みであり、各方面から注目されている一方で、情報の共有や一部道路での渋滞、駐車場の灯りの問題やどのように避難していただくか等、避難方法の課題も見えてきた。これらを検証し、今回の広域避難の実態を把握する必要があることから、全戸を対象とした住民アンケートを実施し、広域避難計画の見直しに反映していきたい。

（理事兼防災安全課長）

英語教育について

Q 先進的な英語教育が全小中学校で取入れられ、来年度からは更に充実した体制になると聞いているが、当町の取組について。

A 来年度からは新たに10名のフィリピン人英語講師を当町に迎える予定である。中学校については、受験の対応や、国で定める規定の授業との兼ね合いから、町が独自に取組む「話せる英語」をどう進めていくかが課題であることから、フィリピン人英語講師を10名中8名配置する。

また、公私連携型保育所においても残りの2名を常駐させることにより、幼少期から英語に慣れ親しめる環境の整備を進めていきたい。（教育次長）



骨髄バンクドナー登録推進について

Q 2019年9月末現在のドナー登録者は全国で約52万人とドナー登録自体が少ない現状であるが、ドナー登録者を増やすための啓発普及や支援など、当町の取組について。

A 令和2年4月1日から骨髄バンクドナー助成補助制度事業を導入し、登録者へ支援するべく準備を進めている。（福祉部長）

議席5番

櫻井 実 議員



防災・減災対策、令和元年台風19号による本町の避難対応について

Q 避難対応について検証すべきと思うが、スケジュールはどのように進めていくのか。

A 12月中に全戸を対象とした住民アンケート調査を実施する。年度内を目的に同アンケート結果を集計し、来年の台風シーズン前までは、広域避難計画の見直しに反映したい。（理事兼防災安全課長）

Q 要配慮者の避難状況と避難施設確保の進捗状況について。

A 全行政区長、民生委員等を通じて、要配慮者など移動手段のない方に対して、要配慮者名簿に基づき声掛けをしていただき、災害協定締結先のバスや社協の車椅子用